

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

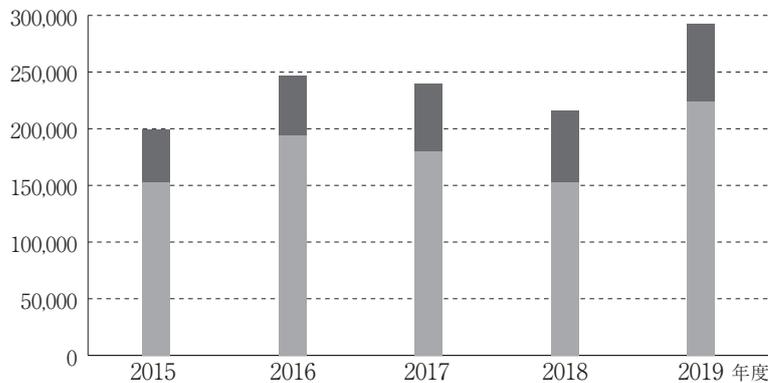
3. 展示

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009674

3 展示

入館者数

- 2019年度総観覧者数（共催展、巡回展含む） 523,902人
- 入館者数（5年間。共催展、巡回展除く）



	2015	2016	2017	2018	2019年度
合計（人）	199,276	246,505	239,476	216,158	292,315
団体	46,176	52,744	59,512	63,130	68,616
個人	153,100	193,761	179,964	153,028	223,699

本館展示

●本館展示プロジェクトチーム

	代表者	構成メンバー	(五十音順)
オセアニア展示	ピーター・マシウス	小野林太郎、菊澤律子、丹羽典生、林 勲男	
アメリカ展示	伊藤敦規	岸上伸啓*、齋藤 晃、齋藤玲子、鈴木七美、鈴木 紀、 關 雄二、八木百合子	
ヨーロッパ展示	新免光比呂	宇田川妙子、森 明子	
アフリカ展示	三島禎子	飯田 卓、池谷和信、川瀬 慈、鈴木英明、吉田憲司	
西アジア展示	菅瀬晶子	相島葉月、上羽陽子、西尾哲夫、山中由里子	
音楽展示	福岡正太	川瀬 慈、笹原亮二、寺田吉孝	
言語展示	菊澤律子	西尾哲夫、吉岡 乾、相良啓子	
南アジア展示	南 真木人	上羽陽子、寺田吉孝、松尾瑞穂、三尾 稔、吉岡 乾	
東南アジア展示	信田敏宏	小野林太郎、檜永真佐夫、平井京之介、福岡正太	
中央・北アジア展示	藤本透子	池谷和信、寺村裕史	
東アジア展示（朝鮮半島の文化）	太田心平		
東アジア展示（中国地域の文化）	河合洋尚	卯田宗平、韓 敏、奈良雅史、野林厚志	
東アジア展示（アイヌの文化）	齋藤玲子	岸上伸啓*、吉田憲司	
東アジア展示（日本の文化）	日高真吾	池谷和信、卯田宗平、笹原亮二、菅瀬晶子、出口正之、 寺村裕史、野林厚志、廣瀬浩二郎、南 真木人	
情報・インフォメーション	野林厚志	飯田 卓、伊藤敦規、寺村裕史、廣瀬浩二郎、福岡正太、 丸川雄三	
イントロダクション展示		※2019年度は、展示情報高度化事業実施部会が担当する。	

*は、兼任教授、特別客員教員、機関研究員等を示す

●特別展・企画展ワーキング

開催を予定する各特別展・企画展の実行委員会、本館展示プロジェクトリーダー（1～2名）

●本館展示の新構築（展示チームは一般公開日現在）

●アフリカ展示

一般公開 2009年3月26日～

アフリカ展示チームリーダー 飯田 卓

アフリカ展示チームメンバー（館内）池谷和信 川瀬 慈 竹沢尚一郎 三島禎子 吉田憲司

内容

人類誕生の地とされるアフリカは、常に外部世界と結びつきながら変化を重ねてきた。私たちが、現在目にするアフリカ大陸の中の、文化や言語の多様性は、そうした変化の結果にほかならない。新たに構築したアフリカ展示では、人びとの「歴史を掘り起こす」営みに目を向けるとともに、現在のアフリカに生きる人びとの生活のありさまを4つの「動詞」（憩う・働く・装う・祈る）のコーナーに分けて紹介する。

●西アジア展示

一般公開 2009年3月26日～

西アジア展示チームリーダー 山中由里子

西アジア展示チームメンバー（館内）上羽陽子 菅瀬晶子 西尾哲夫

内容

中東ともよばれる西アジアの人びとは、自分たちが暮らす地域をマシュリク（日出ずる地）とよび、マグリブ（日没する地）と呼ばれる北アフリカと深い関係を保ってきた。乾燥地帯が大部分を占め、遊牧を生業とする人びとが移動する一方、バグダードやカイロなどでは古来より都市文化が栄えてきた。多くの住民はムスリムだが、ユダヤ教やキリスト教発祥の地でもある。新たに構築した西アジア展示では、地域規模の変動の時代に移りゆく人びとの暮らしを紹介する。

●音楽展示

一般公開 2010年3月25日～

音楽展示チームリーダー 福岡正太

音楽展示チームメンバー（館内）川瀬 慈 笹原亮二 寺田吉孝

内容

私たち人類は、音や音楽によって意志や感情をつたえ、自分の位置を知り、訪れたことのない場所や過ぎ去った時に思いを馳せ、心を奮い立たせたり慰めたりしてきた。また、神仏や精霊など見ることのできない存在と交わってきた。この展示では、音や音楽と私たちの存在とのかかわりを、世界各地の「太鼓」、「ゴング」、「チャルメラ」、「ギター」等の例を通して考える。

●言語展示

一般公開 2010年3月25日～

言語展示チームリーダー 庄司博史

言語展示チームメンバー（館内）菊澤律子 西尾哲夫 八杉佳穂

内容

音声や身ぶりを媒体とすることばは、高度に発達した伝達手段で、感情から科学的な知識まで多くの情報を伝えることができる。文化の多様性を反映すると同時に、人間のもつ認知能力や創造性を生み出すことばは、人類のもつかけがえのない資産である。言語展示では、「言葉を構成する要素」、「言語の多様性」、「世界の文字」というテーマを中心に構成する。

●オセアニア展示

一般公開 2011年3月17日～

オセアニア展示チームリーダー ピーター・マシウス

オセアニア展示チームメンバー（館内）印東道子 菊澤律子 久保正敏 小林繁樹 須藤健一 丹羽典生
林 勲男

内容

海がほとんどの面積を占めているオセアニアには、大小数万をこえる島々が点在している。そこには、発達した航海術をもち、根栽農耕を営む人々が暮らしてきた。「移動と拡散」「海での暮らし」「島での暮らし」では、資源の限られた島環境で、さまざまな工夫をして生活してきた様子を展示している。「外部世界との接触」「先住民のアイデンティティ表現」では、外の世界と出会うなかで、人びとが伝統文化をどのように継承、発展させてきたかを紹介する。

• アメリカ展示

一般公開 2011年3月17日～

アメリカ展示チームリーダー 鈴木 紀

アメリカ展示チームメンバー (館内) 伊藤敦規 岸上伸啓 齋藤玲子 鈴木七美 齋藤 晃 關 雄二
八杉佳穂

内容

広大なアメリカ大陸には、極地から熱帯雨林まで、さまざまな自然環境が見られる。人びとは、それぞれの環境に応じた生活を営んできた。一方で、ヨーロッパ人による征服と植民の歴史を経験したこの地には、日常生活の隅々まで、外来の文化が浸透していった。ここでは衣、食、宗教に焦点をあて、アメリカ大陸の多様性と歴史の重なりを明らかにするとともに、土着の資源に現代的価値を見出そうとする芸術家や工芸家のすがたを紹介する。

• ヨーロッパ展示

一般公開 2012年3月15日～

ヨーロッパ展示チームリーダー 宇田川妙子

ヨーロッパ展示チームメンバー (館内) 庄司博史 新免光比呂 森 明子

内容

ヨーロッパは、16世紀から20世紀にかけて、キリスト教や近代の諸制度をはじめ、さまざまな技術や知識を世界各地に移植した。現代、この流れが逆転するなかで、世界中からの移民とともに、彼らの文化も社会の一部となりつつある。ここでは、時間の流れに注目しながら伝統的な生活様式と宗教、近代の産業化、さらに現代の新しい動きが層をなしてヨーロッパをつくりあげていることを示している。

• 情報・インフォメーション

一般公開 2012年3月15日～

情報・インフォメーションチームリーダー 野林厚志

情報・インフォメーションチームメンバー (館内) 飯田 卓 伊藤敦規 田村克己 廣瀬浩二郎 福岡正太

内容

展示資料の情報を検索して調べることのできる「リサーチデスク」、研究者が取り組んでいる調査を紹介する「研究の現場から」、展示資料を見てさわって理解する「世界をさわる」の3つのコーナーを通して、みんなの研究や展示をより詳しく知ることができる。展示場で見た資料についてもっと知りたい、みんなの研究者って何を調査しているの、モノと身近に接してみたいという探究心を満たし、知識をさらに深める場としてご活用いただきたい。

• 東アジア展示 (日本の文化)

一般公開 「祭りと芸能」「日々の暮らし」 2013年3月22日～

「沖縄の暮らし」「多みんぞくニホン」 2014年3月20日～

東アジア展示(日本の文化)チームリーダー 日高真吾

東アジア展示(日本の文化)チームメンバー (館内) 池谷和信 近藤雅樹 笹原亮二 庄司博史 菅瀬晶子
野林厚志 出口正之

内容

北海道から沖縄県まで、南北に細長い日本列島は、多様な自然に恵まれている。こうした環境のなかで、隣接する諸文化と影響しあいながら、さまざまな地域文化を展開してきた。また、近年では多くの外国人が私たちの隣人として生活をともにしている。ここでは、「祭りと芸能」、「日々の暮らし」、「沖縄の暮らし」、「多みんぞくニ

ホン」という4つの角度から、日本文化の様相を展示している。

• 東アジア展示（朝鮮半島の文化）

一般公開 2014年3月20日～
東アジア展示(朝鮮半島の文化)チームリーダー 朝倉敏夫
東アジア展示(朝鮮半島の文化)チームメンバー (館内) 太田心平

内容

朝鮮半島の人びとは、外部の民族から影響を受けつつも、独自の文化を育んできた。有史以前は東シベリアの諸民族から、その後は中国から取り入れた文化要素を、独自のものに再編し、世界に例を見ないほど高度に統合された文化を獲得してきた。近代には日本に植民地支配され、独立後にはふたつの分断国家として急速な近代化を進めた。そして現代には、積極的に世界に進出する韓国人や、コリア系の海外生活者の姿も見られる。こうした文化の歴史的な重なりや躍動性を、精神世界、衣食住、あそびと知をテーマに紹介する。

• 東アジア展示（中国地域の文化）

一般公開 2014年3月20日～
東アジア展示(中国地域の文化)チームリーダー 塚田誠之
東アジア展示(中国地域の文化)チームメンバー (館内) 韓 敏 小長谷有紀* 田村克己 野林厚志
横山廣子

内容

中国地域では、広大な面積と高低差のある地形がうみだす多様な自然環境のもと、さまざまな民族文化が育まれてきた。漢族が人口の90%以上を占め、平野部を中心に全国に居住している。大陸の55の少数民族は、おもに西南、西北、東北地方の高地や草原に居住しており、台湾には漢族のほか先住のオーストロネシア系民族が居住している。また、世界各地に、中国を故郷とする華僑・華人がくらしている。多様な生活環境から生みだされたさまざまな民族の文化を、歴史や地域性をふまえ、生業、装い、楽器、住居、工芸、宗教と文字、漢族の婚礼や祖先祭祀、台湾の原住民族、華僑・華人をテーマに紹介する。

• 南アジア展示

一般公開 2015年3月19日～
南アジア展示チームリーダー 三尾 稔
南アジア展示チームメンバー (館内) 上羽陽子、杉本良男、寺田吉孝、松尾瑞穂、南 真木人、吉岡 乾、
竹村嘉晃*、豊山亜希*

内容

南アジア地域は、北部の山岳地帯から西はアラビア海沿岸、東はベンガル湾沿岸にいたるさまざまな自然環境のもと、多様な宗教や文化、生活様式をもつ人びとが共存しあう知恵を育んできた。経済発展が著しい現代においても、その知恵は保たれている。この展示では、宗教文化や生業・工芸の多様性、都市を中心とした活気あふれる大衆文化、またグローバル化のなかで花ひらく染織文化のすがたを紹介する。

• 東南アジア展示

一般公開 2015年3月19日～
東南アジア展示チームリーダー 信田敏宏
東南アジア展示チームメンバー (館内) 樫永真佐夫、佐藤浩司、平井京之介、福岡正太、吉田ゆか子*

内容

森と海に囲まれた東南アジア。熱帯・亜熱帯の気候にくらす人びとは、早朝の涼しい時間から働きはじめ、40度近くに達する日中は屋内で昼寝などをして暑さをしのぐ。夕方、スクールが通り過ぎた後は、少し暑さが和らぎ、人びとは買い物や農作業に出かける。日が落ちて涼しくなると、友人や家族と屋台に出かけたり、演劇を見たりして余暇を楽しむ。本展示場では、「東南アジアの1日」をテーマに、その多彩な民族文化を紹介する。

• 中央・北アジア展示

一般公開 2016年6月16日～
中央・北アジア展示チームリーダー 藤本透子

中央・北アジア展示チームメンバー (館内) 池谷和信、佐々木史郎、寺村裕史、小長谷有紀*

内容

中央・北アジアは、ユーラシア大陸の北東部を占める広大な地域である。古くから東西南北をむすぶ交渉路としての役割を担い、多様な民族が行き交っていた。20世紀に社会主義を経験した後、市場経済に移行し、グローバル化の波にさらされながら伝統を再評価する動きがみられる。「自然との共生」「社会主義の時代」というふたつの共通テーマをふまえて、「中央アジア」「モンゴル」「シベリア・極北」の3つの地域に生きる人びとの今を紹介する。

・アイヌの文化展示

一般公開 2016年6月16日～

アイヌの文化展示チームリーダー 齋藤玲子

アイヌの文化展示チームメンバー (館内) 伊藤敦規、岸上伸啓、佐々木史郎、吉田憲司、北原次郎太*

内容

アイヌは、北海道を中心に日本列島北部とその周辺に暮らし、寒冷な自然環境のもとで独自の文化をはぐくんできた先住民族である。江戸時代に幕府による支配が始まり、明治時代に同化がすすめられると、アイヌは差別を受け生活に困るようになった。しかし近年、日本政府はその歴史的事実を認め、アイヌ民族を尊重した政策に取り組みはじめた。ここでは、伝統を継承しつつ、あらたな文化を創造する人びとの姿を紹介する。

*併任教授、客員教員、特別客員教員、機関研究員等を示す

特別展示・企画展示など

●特別展示

特別展 「子ども／おもちゃの博覧会」

会 期 2019年3月21日(木・祝)～5月28日(火)

会 場 特別展示館

主 催 国立民族学博物館

企画協力 一般財団法人日本玩具文化財団

協 力 大妻女子大学、一般財団法人千里文化財団、総合地球環境学研究所

入場者 37,377名

実行委員長 笹原亮二

実行委員 (館内) 日高真吾、寺村裕史

(館外) 是澤博昭(大妻女子大学)、内田幸彦(埼玉県教育局)、後藤知美(埼玉県立歴史と民俗の博物館)、井上かおり(埼玉県立歴史と民俗の博物館)、杉山正司(埼玉県立歴史と民俗の博物館)、神野由紀(関東学院大学)、森下みさ子(白百合女子大学)、是澤優子(東京家政大学)、山田慎也(国立歴史民俗博物館)、濱田琢司(南山大学)、香川雅信(兵庫県立歴史博物館)、滝口正哉(千代田区教育委員会)、亀川泰照(荒川ふるさと文化館)、稲葉千容(今治市大三島美術館)、小山みずえ(武蔵野短期大学)

内容

日本の社会は、明治の海外からの技術や知識の伝来や、国家による軍隊や学校などの制度の施行、昭和の第二次世界大戦の敗戦などによって大きな変化をこうむり、その時々の子どものありようや人びとの子ども観に影響を与えた。この展示では、江戸時代から戦後のさまざまな玩具をつうじ、子どもや子どもをめぐる社会の変遷とその意味を探った。

特別展 「驚異と怪異——想像界の生きものたち」

会 期 2019年8月29日(木)～11月26日(火)

会 場 特別展示館

主 催 国立民族学博物館

後 援 NHK 大阪放送局

協 力 Muséum national d'histoire naturelle(国立自然史博物館、パリ)、
Museum Volkenkunde(国立民族学博物館、ライデン)、海遊館、国際日本文化研究センター、

- 出品協力 国立歴史民俗博物館、株式会社スクウェア・エニックス、一般財団法人千里文化財団、兵庫県立歴史博物館、湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）
 企画協力 五十嵐大介、長谷川朋広
 入場者 78,682名
 実行委員長 山中由里子
 実行委員 （館内）笹原亮二、松尾瑞穂

内容

なぜ人類は、この世のキワにいるかもしれない不思議な生き物を思い描き、形にしてきたのか？ 奇妙で怪しい、不気味だけどかわいい、世界の霊獣・幻獣・怪獣を集め、現代のアーティスト・漫画家・ゲームデザイナーたちによるクリーチャー制作も紹介し、妖怪やモンスターの源泉にある想像と創造の力を探った展示となった。

●企画展示

「旅する楽器——南アジア、弦の響き」

- 会 期 2019年2月21日(木)～5月7日(火)
 会 場 企画展示場
 主 催 国立民族学博物館
 協 力 サンディップ・タゴール、東京国立博物館、トルコ共和国 ユヌス・エムレ インスティトゥート東京、一般財団法人千里文化財団
 協 賛 エア・インディア
 後 援 在大阪・神戸インド総領事館
 入場者 41,400名
 実行委員長 寺田吉孝
 実行委員 （館内）福岡正太、田森雅一
 （館外）小日向英俊（東京音楽大学）、谷 正人（神戸大学）、米山知子（関西学院大学）、ジェニファー・ポスト（アリゾナ大学音楽部）

内容

南アジアの弦楽器は、中央アジアや西アジアから伝えられた楽器が改良され定着したものが多く、そのいくつかは南アジアでの変容を経て東南アジア、東アジアにも伝えられた。本展示では、このような弦楽器の遙かな旅を、南アジアを中心に紹介した。

「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——『みられる私』より『みる私』」

- 会 期 2019年6月6日(木)～9月10日(火)
 会 場 企画展示場
 主 催 国立民族学博物館
 共 催 片倉もとこ記念沙漠文化財団、横浜ユーラシア文化館
 協 力 人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「現代中東地域研究」（国立民族学博物館拠点・秋田大学拠点）、国立民族学博物館「フォーラム型情報ミュージアム」プロジェクト、国立民族学博物館「新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』研究基盤リソース支援プログラム 地域研究に関する地域研究画像デジタルライブラリ（DiPLAS）」
 特別協力 サウジアラビア遺産観光庁、ワーディ・ファータマ社会開発センター、キング・ファイサル・センター、アナス・ムハンマド・メレー（ムスリム世界連盟日本代表理事）
 後 援 サウジアラビアマッカ州、サウジアラビア労働社会発展省
 特別協賛 アラムコ・アジア・ジャパン株式会社
 入場者 34,180名
 実行委員長 西尾哲夫
 実行委員 （館内）菅瀬晶子、相島葉月、黒田賢治
 （館外）縄田浩志（秋田大学）、遠藤 仁（秋田大学）、片倉邦雄（片倉もとこ記念沙漠財団）、

河田尚子（片倉もとこ記念沙漠財団）、藤本悠子（片倉もとこ記念沙漠財団）、
竹田多麻子（横浜ユーラシア文化館）

内容

1960年代末、急激な社会変化をむかえるサウジアラビア西部のオアシスで、文化人類学者の片倉もとは、当時ほとんど不可能と思われた長期調査をおこなった。そして「みられる私」ではなく「みる私」としてのサウジ女性の姿に気づいた。本展示では、片倉が現地で撮影した貴重な写真を手がかりに、半世紀後に実施した最新の追跡調査の成果を交えながら、飾面や民族衣装など個性的で色鮮やかな物質文化をとおして、サウジ女性の生活世界の変遷をたどった。

「アルテ・ポプラー——メキシコの造形表現のいま」

会 期 2019年10月10日(木)～12月24日(火)
会 場 企画展示場
主 催 国立民族学博物館
後 援 在日メキシコ大使館
入場者 52,336名
実行委員長 鈴木 紀
実行委員 (館内) 八木百合子
(館外) 山森靖人(関西外国語大学)、小林貴徳(関西外国語大学)、山越英嗣(早稲田大学)

内容

メキシコでは先スペイン時代にメソアメリカ文明が開花し、16世紀以降はヨーロッパ、アジア、アフリカからさまざまな文化が流入して、独自のものづくりの伝統が生まれた。アルテ・ポプラーとは、特別な才能に恵まれた芸術家の作品ではなく、職人や一般の人びとによる造形表現の総称である。本展示では、仮面や毛糸絵、陶器の資料とともに、骸骨(がいこつ)の姿があふれる都市の街路をイメージしたコーナーや典型的なアルテ・ポプラーである生命の木など、現在のメキシコのアルテ・ポプラーの多様な姿を紹介した。

●共催展示

国立民族学博物館・国立科学博物館 共同企画展「ビーズ——自然をつなぐ、世界をつなぐ」

会 期 2019年4月9日(火)～6月16日(日)
会 場 国立科学博物館
担当者 池谷和信

内容

東京・上野の国立科学博物館と共同で、それぞれの専門分野である民族学、自然科学の視点からビーズを眺め、双方の知見を合わせることで、ビーズと人類とのかかわり方を紹介する企画展示を開催した。

国立民族学博物館コレクション「世界のかawaii衣装」

会 期 2019年11月13日(水)～11月25日(月)
会 場 阪急うめだ本店9階 阪急うめだギャラリー
担当者 上羽陽子

内容

本館が所蔵するコレクションのなかから、「かawaii」をキーワードに選んだ、1920年代から現在までの衣装約120点を紹介した。これらを身につける人びとの世界に思いを馳せることは、私たちの装いについても問い直す機会となった。

●コレクション展示

「朝枝利男の見たガラパゴス——1930年代の博物学調査と展示」

会 期 2020年1月16日(木)～2月27日(木)
会 場 企画展示場
担当者 丹羽典生

内容

1932年のガラパゴス諸島に足を踏み入れ記録した日本人がいた。このコレクション展示では、アメリカの学芸員

で画家・写真家・剥製師でもあった朝枝利男がガラパゴスで撮影した写真を中心に彼のアルバム・日記・魚の水彩画について紹介した。

●巡回展示

「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——『みられる私』より『みる私』」

会 期 2019年10月5日(土)～12月22日(日)

会 場 横浜ユーラシア文化館

担当者 西尾哲夫

内容

本館で開催した企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——『みられる私』より『みる私』」(2019年6月6日～9月10日)を巡回展示した。

「子ども／おもちゃの博覧会」

会 期 2019年10月12日(土)～11月24日(日)

会 場 埼玉県立歴史と民俗の博物館

担当者 笹原亮二

内容

本館で開催した特別展「子ども／おもちゃの博覧会」(2019年3月21日～5月28日)を巡回展示した。

●その他

「武器をアートに——モザンビークにおける平和構築」

会 期 2020年1月7日(火)～2月10日(月)

会 場 文部科学省エントランス(新庁舎2階)

担当者 吉田憲司

内容

アフリカのモザンビークでは、1975年の独立後1992年まで続いた内戦の結果、戦争終了後も大量の武器が民間に残された。この武器を農具と交換することで回収し、武装解除を進めるとともに、回収された銃器を用いてアートの作品を生み出し、平和を人びとの心に根づかせようという、TAE (Transformação de Armas em Enxadas / Transforming Arms into Plowshares) 「銃を鋤に」というプロジェクトが進められ、内戦後の平和構築のモデルとして注目を集めている。2012年、このプロジェクトの一環として、フィエル・ドス・サントス、クリストヴァオ・カニャヴァート(ケスター)の二人のアーティストの手で、日本に住む人びとへのメッセージを込めて4点の作品が制作され本館におさめられた。この展示では、本館で収集した作品を展示し、アートを通じて平和を築く営みを紹介した。

展示関連出版物およびプログラム

●特別展示

「子ども／おもちゃの博覧会」

発行日 2019年3月21日

編 者 笹原亮二

発 行 国立民族学博物館

「驚異と怪異——想像界の生きものたち」

発行日 2019年8月29日

編 者 山中由里子

発 行 国立民族学博物館

●ビデオテークブースで公開した番組

「王の祭り——仮面の王国マンコン、カメルーン高地」(番組番号1757)

制作監修：飯田 卓、端 信行

カメルーン高地に現在もその伝統がみられる王政社会の最大の行事は、数年に一度催される、王とともに踊る「王の祭り」である。

「民博でのカムイノミ——2016年度「ミンパク オッタ カムイノミ」の記録」(番組番号1758)

制作監修：齋藤玲子

民博に収蔵されているアイヌ民族資料の安全な保管と継承を願い、開催されたカムイノミ（儀式）のようすを短くまとめたものである。

「王の祭り——仮面の王国マンコン、カメルーン高地」(番組番号7249)

制作監修：飯田 卓、端 信行

カメルーン高地に現在もその伝統がみられる王政社会の最大の行事は、数年に一度催される、王とともに踊る「王の祭り」である（映像民俗誌）。

「オアシス都市のくらし——ウズベキスタン・サマルカンドの食文化」(番組番号7250)

制作監修：寺村裕史

バザール（市場）での買い物から、羊肉の調理やパン焼きの様子など、「食」をつうじてオアシス都市でのくらしぶりを紹介する。

「アシェンダ！エチオピア北部地域社会の女性のお祭り」(番組番号7251)

制作監修：川瀬 慈

アシェンダはエチオピア北部において開催されるお祭りです。はなやかに着飾った若い女性のグループが太鼓をたたきながら家々の軒先で歌い踊ると同時に、道行く人々を祝福する。

「ジャワ島の仮面芝居ワヤン・トベン」(番組番号7071)

制作監修：福岡正太

仮面舞踊劇ワヤン・トベンの上演の記録。みにくい若者が、神の助けにより美しい武将パンジに変身し、美しい姫と結ばれる。

「西ジャワの仮面舞踊トベン・チルボン」(番組番号7072)

制作監修：福岡正太

西ジャワ北海岸の町チルボン周辺でさかんな仮面舞踊。王族の墓所前の広場でおこなわれた上演と村の儀礼における上演の記録。

「ジャワ島の影絵人形芝居ワヤン・クリット」(番組番号7073)

制作監修：福岡正太

ジャワ島中部の影絵芝居の上演、人形作り、ゴング作りの記録。マハーバーラタの登場人物ビモがいけにえを要求する怪物をたおす。

「スンダ人の伝統音楽と楽器」(番組番号7075)

制作監修：福岡正太

竹の楽器アングルンとチャレン、竹笛スリン、太鼓クンダン、胡弓ルバップ。西ジャワのスンダ人の楽器とその音楽を紹介する。

「ワヤンとマハーバーラタの物語」(番組番号7076)

制作監修：福岡正太

『マハーバーラタ』はインド起源の長大な叙事詩だ。ジャワ島の芸能ワヤンが描く、その魅力的な登場人物たちを紹介する。

「ジャワ島チルボンの木偶人形芝居——ワヤン・ゴレック・チュパック」(番組番号7077)

制作監修：福岡正太

ワヤン・ゴレック・チュパックは、ジャワ島西部北海岸の町チルボンで盛んな人形芝居。その上演と人形製作の過程を紹介する。

●マルチメディア番組

該当なし

●「みんなく電子ガイド」プログラム数（2020年3月31日現在）

展示プロジェクト地域	プログラム数			
	日本語版	中国語版	英語版	韓国語版
オセアニア	23	23	23	23
アメリカ	27	27	27	27
ヨーロッパ	12	12	12	12
アフリカ	17	17	17	17
西アジア	16	16	16	16
南アジア	40	40	40	40
東南アジア	32	32	32	32
中央・北アジア	30	30	30	30
東アジア				
朝鮮半島の文化	47	47	47	47
中国地域の文化	39	39	39	39
アイヌの文化	10	10	10	10
日本の文化	35	35	35	35
音楽	0	0	0	0
言語	0	0	0	0
総計	各 328			